

2016.08.08 皇室を仰ぐ日本の国柄について

おはようございます。自民党の参議院議員の西田昌司でございます。この7月に行われました参議院選挙では我々の公認候補の二ノ湯さとしさんが三回目の当選、トップ当選で勝たすことが出来ました。心から皆様方のご支援に御礼申し上げたいと思います。その後、8月1日、2日、3日とこの参議院選挙が終わって新しい議員が誕生しましたので、臨時国会が開かれまして特に参議院の方の院の構成というのが行われました。それぞれの委員会などの役職の決定が行われた訳でありますけれども、今回自民党は、新たに改選で当選された方々、それから無所属から自民党に入党された方々合わせまして、過半数を確保することが出来たわけでございます、18年ぶりの過半数確保だということでもあります。今回、友党の公明党や維新の党、始め憲法を改正することを是認している勢力が参議院においても2/3を超えることになった。そのことによって、安倍内閣の下で憲法改正が行われるのではないかということが言われておりますが、憲法改正は当然しなければならない訳でありますけれども、しかし、憲法改正をそう簡単にすぐ出来るということにはならない。まずもって、党内、そして国会内、そして民主党も含めた野党との間でしっかりとした議論がなされてその結果、国民に憲法改正の必要性ということが十分認識されないと、これは今2/3があるから出せばそう簡単に通るのだというそんな単純な話ではない。このことだけは皆様方にお話しさせて頂きたいと思います。マスコミなどは我々が何度もそういう風に言っているわけで有りますけれども、あたかも今回選挙の時には何も言わなかったのにいきなり2/3で憲法改正になるのだというような言い方をしていますけれども、そう言うことにはなり得ないということでもあります。

さて、そんな中で参議院選挙の後、今丁度、リオデジャネイロでオリンピックが行われているわけでありまして。日本の選手も金メダルを取ってくれる選手がいたり、それぞれの分野で大きな成果を出して頂いております。その一方で、この夏の時期といえますのは8月15日の終戦記念日、これがもう間もなくやって来る訳であります。先日はこの8月6日のリオデジャネイロオリンピックの開会式と広島原爆投下の慰霊の日が重なったわけでありまして、当に夏と言いますと、敗戦、終戦の様々な儀式が行われたりする訳です。そんな中で今日8月8日3時から、天皇陛下が自らのお気持ちをビデオメッセージで国民に伝えるという報道が流れております。内容は我々もまだ知らないわけでありまして、生前譲位についての事も含めご自分の天皇という公務についてのお考えを率直な気持ちでお話になるというような報道がされています。当にこの天皇陛下のお勤めというのは国民統合の象徴という風にかかれてはいるわけでありまして、それをしっかり体現するために被災地に訪れられたり、また様々なこの戦争での慰霊の活動を行われたり、日本民族統合の象徴として、日夜激務をこなしておられる。この姿には我々も本当に心から敬意と尊敬、頭の下がる思いでやっている訳であります。天皇陛下がどういうお気持ちをお述べになるか分かりませんが、いずれにしても、我々感じますのは、日本の

国というのは他の国と違って皇室を仰いで。万世一系の皇室を仰いで日本国民の統合の象徴としておられるお陰で、政治的な対立、これはもう与野党色々ある訳でありますけれども、国としての一体性は損なわれずに来た。これが日本の国が他の国と違うところがあります。日本の国が二つに分断されて、またどこかの県がこの日本から離れて独立していく等々、そういう様な話が日本にはならない。それは当にこの天皇陛下を中心に国民が一つに統合してきた。そういう長い歴史があるからであります。これが今アメリカなどの自由と民主主義の国では、共和党、民主党の大統領選挙が11月に行われる。今回、国を二分する様な対立の軸ができています。それは所謂、富裕層、そして白人層、また黒人層など有色、それから白人、富裕層、貧困層と様々なところで対立と亀裂が生み出されてきている訳であります。こうしたものが国を二分する議論になってくる訳であります、日本の場合にはそういうことにならないのは、当に皇室という存在のおかげであると思う訳でございます。

同時にそうした皇室の存在が日本の国を1つにまとめる大きな力になっているのも事実でありますけれども、肝心のところの議論がなかなかされにくい、これもまた日本の国の特徴でもあるわけであります。徹底した議論がなかなか実は日本の国というのは他の国と比べて、議論が私はまだまだ少ないと思っております。特に私が一番気にかけておりますのは、先ほど言いましたように、8月15日がまたやって来るわけでありますけれども、「あの戦争は一体何だったのか」ということを戦後一度も、いや戦時中においても議論された形跡が見られないのであります。勿論、戦時中は一番大きな流れから言いますと、そもそも150年前に黒船がやって来て、そして鎖国を解き、開国をし、欧米列強から自分たちの国を守る為に今度は富国強兵政策。そのためには新体制が必要ということで明治維新が成し遂げられて、そして外国勢力に対抗する。そうした延長線上で、他の国との対立となって来た訳であります。その後、戦後の日本におきましては、対立を絶対に避けるということが国是となって来てしまっております。そしてその結果、「先の戦争は一体何だったのか」という議論がされないままに、兎に角、対立し戦争をしたことが間違っていた、という話で終わってしまう。しかし、これで本当に歴史を次の世代に渡すことができるのか。実はその所の整理が出来ていないわけであります。今回も終戦の日になりますと、色んな記事がマスコミから報道されたり、政府からメッセージが出たりしますが、それとは裏腹に、今、日本の国の中では平和主義を堅持していこう、これは自民党も野党まで含めてどの政党も共通のものだと思います。このように平和を愛好する、これはもう間違い無いわけでありますけれども、もう片方で、最近では中国のコストガードの船が度々、尖閣諸島に入ってくる。接続水域だけでなく我が国の領海まで平気で入ってくる。まさに日本の思いとは裏腹に、領土的野心を次々成し遂げていこう、という国が我が国の間近にある。北朝鮮も何度もミサイルの発射実験を繰り返して先日は日本の排他的経済水域、これは秋田沖の辺まで1000kmに及ぶミサイルの発射実験を行ったと報じられていたけれども、安全保障の面で日本は大変な危機に直面しているというのも現実であるわけであ

ります。自分たちの国は自分たちで守っていく、その為にはありとあらゆる手段、同盟関係でアメリカと頑張っていくということも大事でありますけれども同時に、自分たちの国は自分たちで守っていくという意識とそしてこれを実行するための法整備、様々な予算措置などが必要だと言うことは言を俟たない訳であります。こうした当たり前の話をしていくときに、今度は野党側からは日本を守る為の法整備が戦争法案なのだとされたり、マスコミの方もそういう報道を平気でしてしまう。これは一体何のかというと、「あの戦争が何だったのか」ということの整理がついていない。そして更に、占領中の日本の教育の仕組みも、それから歴史観も完全に占領軍によって塗り替えられてしまった。その結果、日本が一方向的に戦争の悪者になってしまう。そしてもう一方で、日本以外の国は全て正義の国と、特にアメリカに対してはそういう形の教育を日本がずっと行ってきた。しかし、現実にはアメリカという国が世界で一番多くの戦争をしている。そして、今も様々な対立の芽を作ってきた張本人であるということも揺るぎない事実であります。こうした事も含め、もう一度我々は終戦の日、本当は敗戦の日でありますけれども、このお盆を契機にかつてのあの日本は何故そういう道を歩まなければならなかったのか、そして何を我々は反省して、何を今この国は学んできたのかという事を考えますと、色々我々はまだまだ議論の足りない真実が国民の前で議論されていないことに気がつく訳であります。

今回そうした思いを我々は街頭遊説の中でお話しさせていただいておりますけれども、こうしたことも含めて9月9日に私は実は、毎年この国政報告会をさせていただいております。今年は9月9日に京都府会館、今のこのロームシアター京都でありますけれども、このホールで行うことになっております。今、私の秘書がそのチラシを配らさして頂いておりますけれども、是非そうした国政報告会の中におきまして、今の日本の一番大きな問題点、何をすべきなのか、これから先にも自分たちの国がしっかりと存在していくためにはしておかなければならない議論が沢山ある。その中の一つ一つを皆様方とお示しをしながら議論させて頂きたいと思っております。是非とも、皆様方にもこの9月9日ロームシアター京都、ここで6時から国政報告会をさせて頂きますけれども、是非ともご参加頂きたい。このことをお願い申し上げたいと思います。これからますます暑い日が続きますけれども、どうぞ体にお疲れ頂きますして、特に38度近い気温が毎日続いておりますので、熱中症には本当にお気をつけ頂きたいと思っております。皆様方のご自愛を心から祈念申し上げます、今日の街頭遊説を終わらせて頂きます。続きまして秋田公司府議会議員から京都府議会のことにつきましてもお話を頂きますので今しばらくのご清聴をお願い致します。